

縁起のいい、幸福駅

帯広

幸福駅は旧国鉄広尾線の駅で、1956年に営業開始し、87年に廃駅となった。この駅が有名になったのは、73年にNHKの新日本紀行「愛の国から幸福へ」と紹介されてから。



今も根強い人気を誇る幸福駅

鉄道マニアの間では「縁起のいい駅」として有名だったが、これで一気に全国に駅名が知れ渡った。特に同線の愛国駅から幸福駅までの切符は「愛の国から幸福へ」という語呂のよさから大ブームとなり、73年だけで300万枚売れたといわれている。

を台湾から来たというカップルが仲良くついていた。レール上にはキハ22形2両と除雪車1両が静態保存されている。

駅舎近くの売店は、幸福駅の生き字引ともいわれる「幸福おじさん」が運営するお土産店。店の方に話を聞くと「多い日には1000人も来るよ」という。当然のように、愛国駅から幸福駅行きのレプリカ切符（硬券220円、軟券180円）を購入すると、なぜか芹洋子(67)の「愛の国から幸福へ」（74年）のメロディーが浮かんできた。

鉄道駅としての寿命は短かったが、幸福駅は廃駅後は「観光駅」として再出発した。現在も、待合室には現役当時同様に名刺や使用済みの定期券、プリクラがびっしり。同駅は「恋人の聖地」にも指定されており、ホームの入り口の「幸福の鐘」